

都内中小企業の事業資金に関する調査

(令和元年5月調査)

《 概要 》

- 主な取引金融機関は、「都市銀行」が53.4%と最も高く、次いで「信用金庫」が33.2%となった。
- 主な取引金融機関の借入や返済に対する姿勢をDI値（「緩やか」－「厳しい」）でみると38.1となった。「緩やか」が「厳しい」を上回る状況が続いているが、前回と比べてDI値は1.1ポイント上昇した。
- 主な取引金融機関からの借入金利の傾向は、「変化なし」が76.6%と7割以上を占めて最も高い。
- 最近の借入金利は、「1%台」が40.4%と最も高く、次いで「1%未満」が27.6%、「2%台」が23.9%となった。
- 今後3か月間の資金需要をDI値（「増加する」－「減少する」）でみると、15.7と前回と比べて3.4ポイント低下した。
- 金融機関からの借入金総額の状況は、前年同時期と比べて「変化なし」が41.4%と最も高く、次いで「減少した」が39.9%となった。今後1年以内に借入金総額が現在額を上回ることがあるかについては、「ある」が16.7%となった。

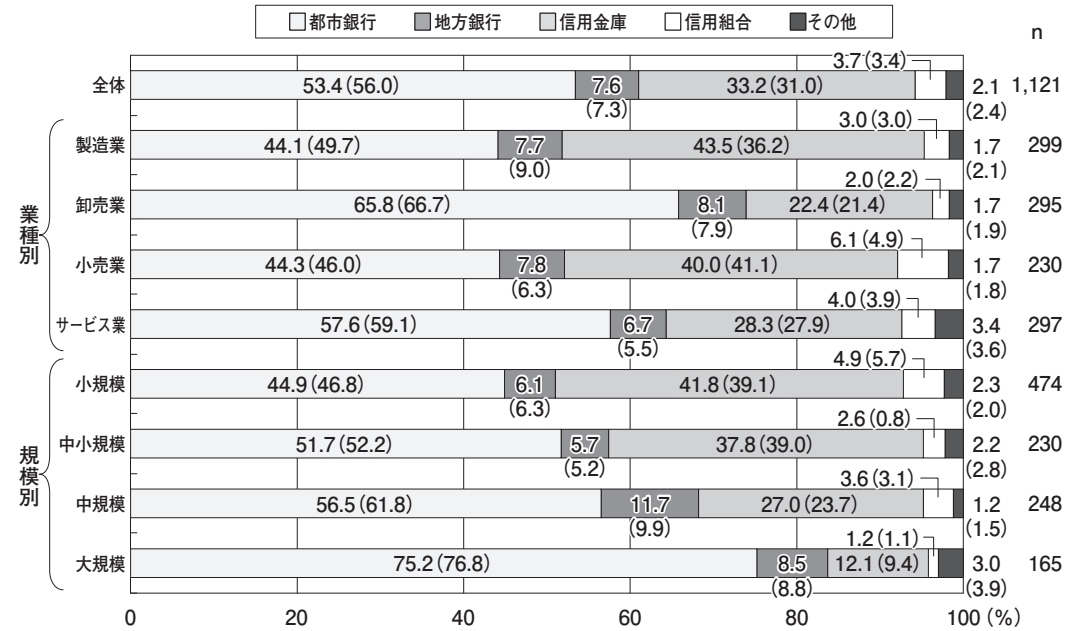
1. 主な取引金融機関

主な取引金融機関は、全体では「都市銀行」が53.4%（前回56.0%）と最も高く、次いで「信用金庫」が33.2%（同31.0%）であり、あわせると8割を超えている。このほか、「地方銀行」が7.6%（同7.3%）、「信用組合」が3.7%（同3.4%）となった。

業種別にみると、全業種で「都市銀行」が最も高く、特に卸売業では65.8%を占める。一方、製造業と小売業では、第2位の「信用金庫」がともに4割以上を占め、「都市銀行」との差は小さい。

規模別にみると、小規模では「都市銀行」が44.9%、「信用金庫」が41.8%となっている。規模が大きくなるほど「都市銀行」が高くなり、大規模では75.2%を占める。

図表1 主な取引金融機関



注) 無回答を除き集計。規模不明を除く。()内は前回値(平成30年11月調査)。四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。

2. 借入や返済に対する姿勢

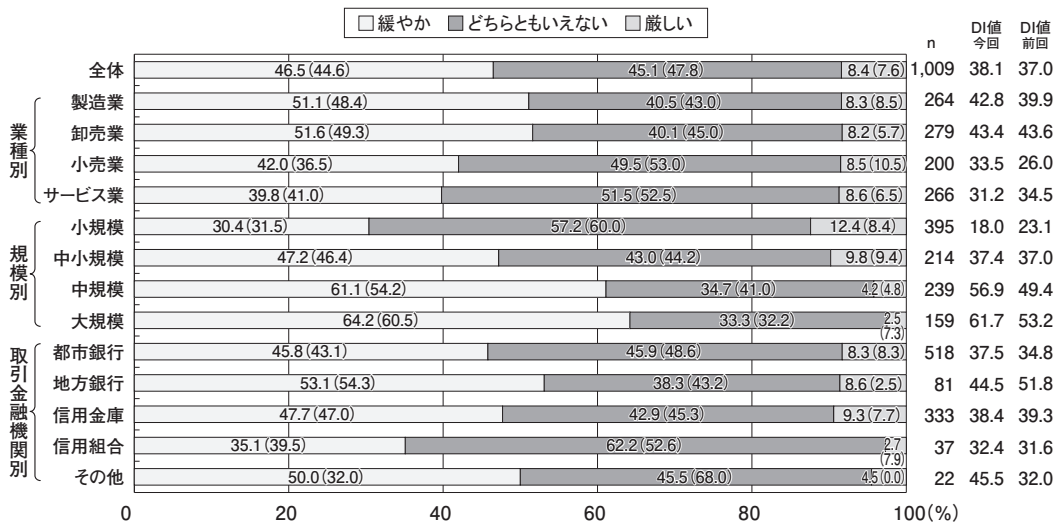
主な取引金融機関の借入や返済に対する姿勢をDI値（「緩やか」－「厳しい」）でみると、全体では38.1（前回37.0）となった。「緩やか」が「厳しい」を上回る状況が続いているが、前回と比べてDI値は1.1ポイント上昇した。

業種別にみると、小売業33.5（同26.0）は7.5ポイント、製造業42.8（同39.9）は2.9ポイントとともに上昇した。一方、卸売業43.4（同43.6）は0.2ポイント、サービス業31.2（同34.5）は3.3ポイントとともに低下した。

規模別にみると、大規模61.7（同53.2）は8.5ポイント、中規模56.9（同49.4）は7.5ポイントとともに上昇した。一方、小規模18.0（同23.1）は5.1ポイント低下した。

取引金融機関別にみると、都市銀行37.5（同34.8）は2.7ポイント上昇した。一方、地方銀行44.5（同51.8）は7.3ポイント低下した。

図表2 取引金融機関の借入や返済に対する姿勢



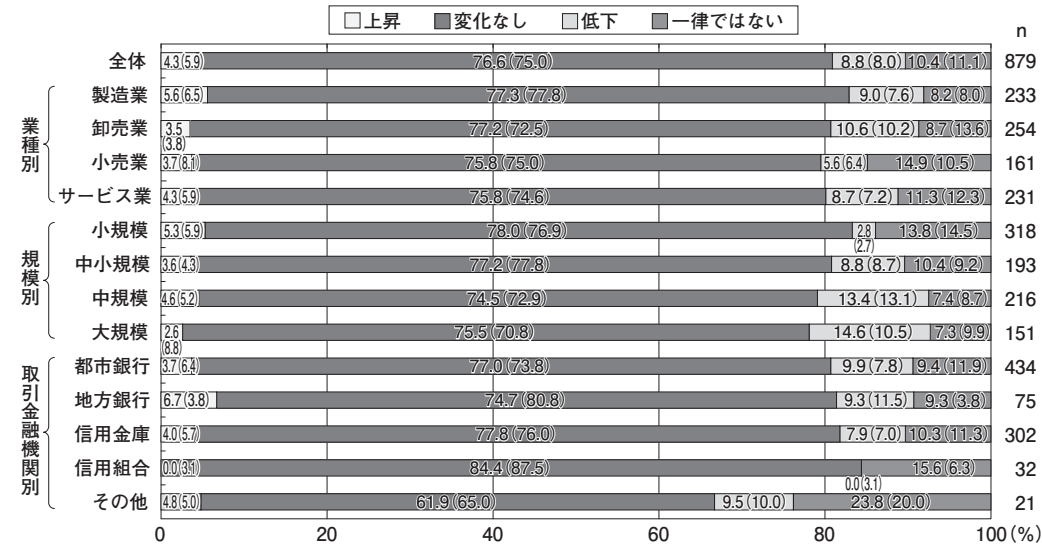
注) 無回答を除き集計。規模・取引金融機関不明を除く。()内は前回値(平成30年11月調査)。四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。

3. 主な取引金融機関からの借入金利

(1) 金利傾向

主な取引金融機関からの借入金利の傾向は、全体では「変化なし」が76.6% (前回75.0%) と7割以上を占めて最も高い。また、「低下」が8.8% (同8.0%) で、「上昇」の4.3% (同5.9%) を上回っている。

図表3 金利傾向



注) 無回答を除き集計。規模・取引金融機関不明を除く。()内は前回値(平成30年11月調査)。四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。

(2) 金利水準

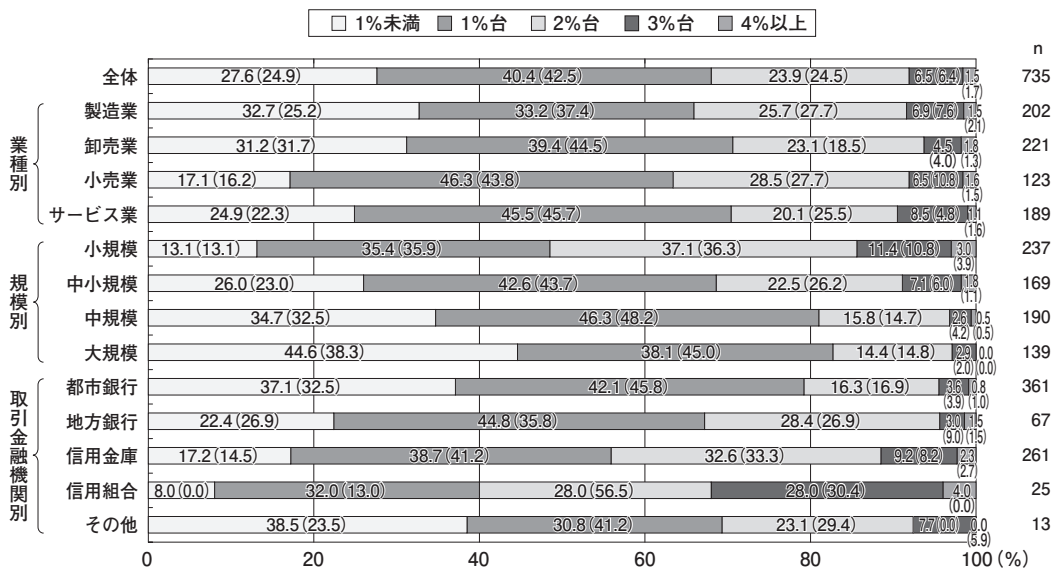
最近の借入金利は「1%台」が40.4% (前回42.5%) と最も高く、次いで「1%未満」が27.6% (同24.9%)、「2%台」が23.9% (同24.5%) となった。「1%未満」、「1%台」、「2%台」をあわせると9割を超えている。

業種別にみると、小売業は「1%未満」が17.1%にとどまる。

規模別にみると、規模が大きくなるほど「1%未満」が増加しており、大規模では4割を超えている。

取引金融機関別にみると、都市銀行では「1%台」が42.1%で最も高く、「1%未満」とあわせると約8割を占める。

図表4 金利水準



注) 無回答を除き集計。規模・取引金融機関不明を除く。()内は前回値(平成30年11月調査)。3年超5年以内、保証協会の保証付以外。四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。

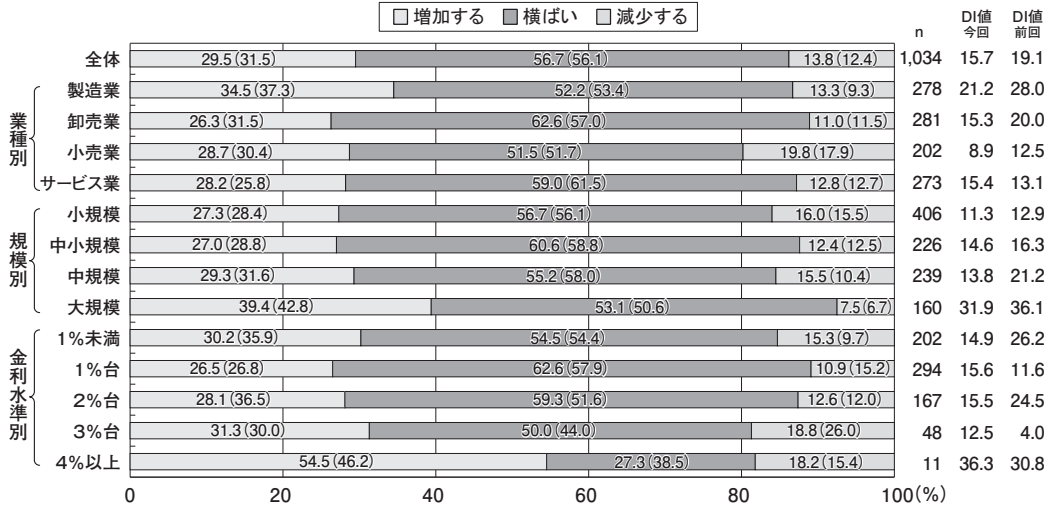
4. 今後3か月間の資金需要

今後3か月間の資金需要をDI値(「増加する」-「減少する」)で見ると、全体では15.7(前回19.1)と前回と比べて3.4ポイント低下した。

業種別にみると、製造業21.2(同28.0)は6.8ポイント、卸売業15.3(同20.0)は4.7ポイント、小売業8.9(同12.5)は3.6ポイント低下した。一方、サービス業15.4(同13.1)は2.3ポイント上昇した。

規模別にみると、全ての規模で低下した。なかでも、中規模13.8(同21.2)は7.4ポイント低下した。

図表5 資金需要（今後3か月間）

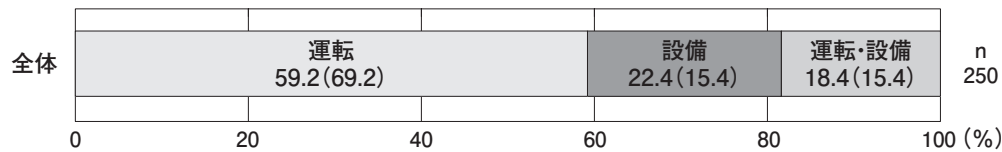


注) 無回答を除き集計。規模・金利水準不明を除く。()内は前回値(平成30年11月調査)。四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。

(1) 資金使途

資金需要増加分の資金使途をみると、「運転」が59.2%（前回69.2%）と最も高く、次いで「設備」22.4%（同15.4%）となった。前回と比べて「運転」が10.0ポイント減少、「設備」が7.0ポイント増加した。

図表6 資金使途

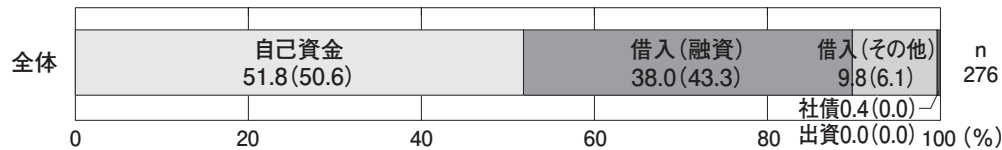


注) 資金需要が増加する企業につき、無回答を除き集計。()内は前回値(平成30年11月調査)。四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。

(2) 調達手段

資金需要増加分の調達手段をみると、「自己資金」が51.8%（前回50.6%）と最も高く、次いで「借入（融資）」が38.0%（同43.3%）となった。前回と比べて「自己資金」が1.2ポイント増加し、「借入（融資）」が5.3ポイント減少した。

図表7 調達手段



注) 資金需要が増加する企業につき、無回答を除き集計。()内は前回値(平成30年11月調査)。四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。

5. 金融機関からの借入金総額の状況

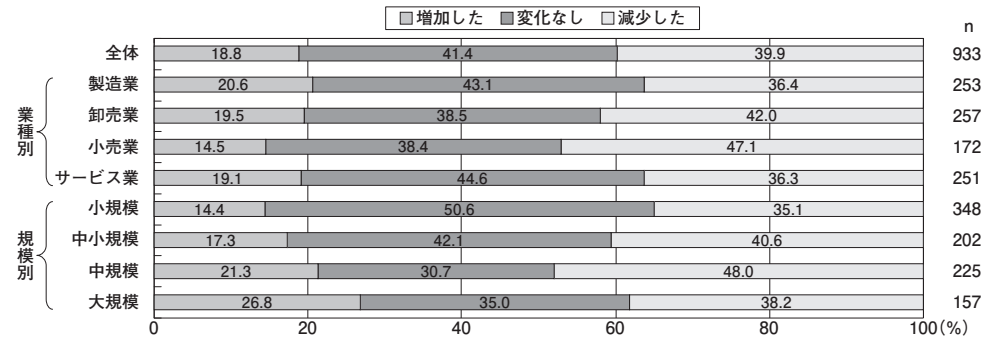
(1) 借入金総額（前年同時期比）

前年同時期と比べた現在の金融機関からの借入金総額の状況は、全体では「変化なし」が41.4%と最も高く、次いで「減少した」が39.9%となったがその差は小さい。一方、借入金総額が「増加した」は18.8%となった。

業種別にみると、「減少した」は小売業が47.1%と最も高い。

規模別にみると、規模が大きくなるほど「増加した」の割合が高く、大規模では26.8%を占めた。

図表8 金融機関からの借入金総額（前年同時期比）



注) 無回答を除き集計。規模不明を除く。四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。

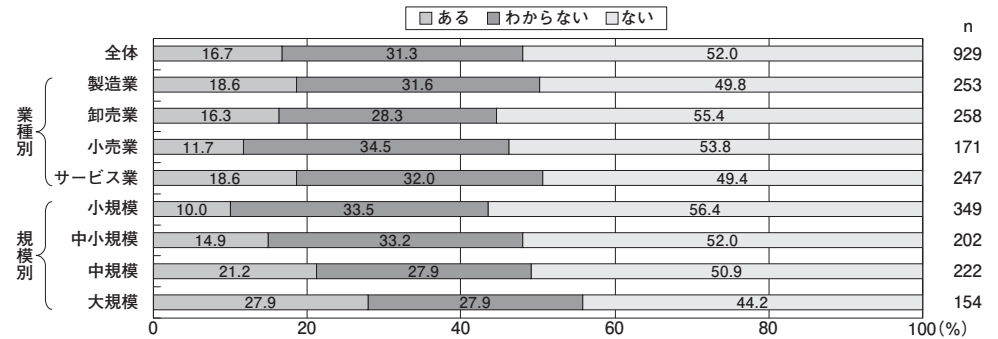
(2) 借入金総額の増加見込み（今後1年内）

今後1年内に金融機関からの借入金総額が現在額を上回ることがあるかについては、「ある」が16.7%となった。

業種別にみると、他の業種と比べて「ある」は製造業とサービス業がともに18.6%を占め最も高い。

規模別にみると、大規模では「ある」が27.9%と他の規模より高い。

図表9 借入金総額の増加見込み（今後1年内）



注) 無回答を除き集計。規模不明を除く。四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。